

アスタナにあるカザフスタン日本人材開発センターの日本語コースに通つてもう 3 年になります。この 3 年の間には色々なことがありました。日本語で話すことに自信が持てなかつた時期もありますが、日本語能力試験に合格するため、一生懸命勉強もしました。そして運よく、2015 年の秋に、JF 講座訪日研修の参加者になることができました。このプログラムの魅力の一つは、25ヶ国から 29 人という、世界の色々な国から参加者が集まることです。日本に行ったばかりの最初の頃は、自分の日本語に不安を持っていました。でも毎日を過ごす中で、不安もなくなりました。私のグループは優しい人ばかりで、研修中、いつもお互いを助け合いました。そのグループのおかげで、私は日本語を使って楽しく過ごすことができました。

来日する前、私はとても緊張していました。日本で道に迷わず行き方が正しく判断できるかどうか、自分の意見を正しく伝えられるかどうか、言ったことをきちんと理解できるかどうかなどが不安だったのです。でも、日本や日本人は他の国とは違っていて、日本人には助け合いの精神があると感じました。日本人はいつも助けたり、丁寧に説明したりしてくれます。必要であれば、行き先まで一緒に連れて行ってくれます。関西国際センターでもきちんとアレンジされていて、全ての「行動」が前もって計画されました。そのため、私は効率的に日本を理解することができました。私がそのような素晴らしいプログラムに参加したことがまだ信じられないくらい、夢のような時間でした。例えば、関西弁に関する授業、東京の災害予防センター訪問、また生け花、和太鼓、書道、茶道、合気道などの文化体験、京都の金閣寺や清水寺、東京の江戸博物館や浅草などの日本の観光地訪問など、盛りだくさんの内容でした。一番心に残ったのは、小学校訪問とホームビジットです。日本人と一緒に過ごすことができ、とても親しくなり、将来、もう一度会いに行く決心をしました。

日本にいた日々はとてもいい思い出で、時間が経っても決して忘れないでしょう。

国際交流基金関西国際センターおよびカザフスタン日本人材開発センターの増島さんに感謝します。いろいろ学ぶことができた面白いプログラムでした。

ジュスピヴァ・サマル、アスタナ